

公 開
資 料 3

第 3 4 6 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和5年6月29日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 協力学術研究団体関係						
提案1	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	5	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本教育保健学会 ②防災教育学会 ③認定特定非営利活動法人日本心血管協会 ④ヒューマンケア研究学会 ※令和5年6月29日現在2,122団体（上記申請団体を含む）	望月副会長	会則36条
2. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和5年度第3四半期】						
提案2	公開シンポジウム「AI時代における哲学・美学・倫理学・宗教学」の開催について	哲学委員会委員長	7	主催：日本学術会議哲学委員会 日時：令和5年11月25日（土）13：30～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第2
3. その他のシンポジウム等						
提案3	公開シンポジウム「One Health：野生動物に関わる諸問題と獣医学」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	11	主催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 日時：令和5年7月29日（土）13：30～15：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案4	公開シンポジウム「数学教育の変遷～数理・データサイエンス・AI時代における数学教育の変革及び女性人材の登用に向けて」の開催について	数理科学委員会委員長	15	主催：日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会、数理科学委員会IMU分科会、数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会数理統計学分科会 日時：令和5年8月2日（水）13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案5	公開講演会「健康・幸福寿命の延伸に資するスマート歯科医学・歯科医療の実現」の開催について	歯学委員会委員長	17	主催：日本学術会議歯学委員会、歯学委員会臨床系歯学分科会 日時：令和5年8月4日（金）14：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2

提案6	公開シンポジウム 「オープンサイエンス 時代における学術デー タ・学術試料の保存・ 保管、共有問題の現状 と将来」の開催につ いて	地球惑星科学委 員会委員長	19	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 日時：令和5年8月20日（日）13：00～ 17：20 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案7	公開シンポジウム 「「こころの病」の脳 科学」の開催につ いて	臨床医学委員会 委員長、基礎医 学委員会委員長	23	主催：日本学術会議臨床医学委員会脳と こころ分科会、基礎医学委員会神経科学 分科会、基礎医学委員会・臨床医学委員 会合同アディクション分科会 日時：令和5年8月22日（火）13：00～ 17：25 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案8	日本学術会議近畿地区 会議学術講演会「女性 の活躍から未来を考 える」の開催につ いて	科学者委員会委 員長	27	主催：日本学術会議近畿地区会議、京都 大学 日時：令和5年9月9日（土）13：00～ 17：00 場所：京都大学イノベーション棟シンポ ジウムホール（京都市左京区）（ハイブ リッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第 2
提案9	公開シンポジウム「歴 史学が開く未来——新 たな視角と研究＝教育 ＝実践のサイクルを通 じて」の開催につ いて	史学委員会委員 長	29	主催：日本学術会議史学委員会歴史認 識・歴史教育に関する分科会、史学委員 会歴史学とジェンダーに関する分科会 日時：令和5年9月10日（日）13：30～ 17：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第 2
提案10	公開シンポジウム「社 会課題に立ち向かう総 合工学分野の人材育成 ～これからの大学教育 に何を求めるか？（仮 題）」の開催につ いて	総合工学委員会 委員長	31	主催：日本学術会議総合工学委員会総合 工学企画分科会 日時：令和5年9月13日（水）13：30～ 17：00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド 開催） ※第三部承認	—	内規別表第 2
提案11	公開シンポジウム「臓 器再生最前線～ミニ臓 器の作製から応用まで ～」の開催につ いて	歯学委員会委員 長	35	主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯 学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会 日時：令和5年9月16日（土）17：30～ 19：00 場所：日本大学歯学部（東京都千代田 区） ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案12	公開シンポジウム「第 二回安全安心技術が支 えるデジタル社会— （見解）安全安心な デジタル社会にむけ た制度構築について— Digital Society Supported by Safety and Security Technologies （DS4T）」の開催につ いて	情報学委員会委 員長	37	主催：日本学術会議情報学委員会ディ ジタル社会を支える安全安心技術分科会 日時：令和5年9月19日（火）13：00～ 18：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第 2

提案13	公開シンポジウム「豊かな食と畜産の未来に向けて」の開催について	食料科学委員会 委員長	39	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本畜産学会 日時：令和5年9月21日（木）13：00～17：00 場所：国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学講堂（北海道帯広市）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（2）」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	43	主催：日本学術会議基礎生物学委員会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会 日時：令和5年11月26日（日）13：00～16：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2

4. 後援

提案15	国内会議の後援をすること	会長	45	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①日本科学振興協会年次大会2023「会いに行ける科学者フェス」 ②第44回日本熱物性シンポジウム ③第66回自動制御連合講演会	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	----	-----------------

5. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年7月13日（木）14:30～開催。	47

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概要
1	日本教育保健学会 (http://www.educational-health.jp/)	本団体は、教育保健に関する学術研究及び実践の発展に資することを目的とするものである。
2	防災教育学会 (http://bosai-education.net/)	本団体は、防災教育に関する研究・実践研究発表、知見と実践の交換、内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、防災教育の進歩普及を図り、もって、日本・世界の防災教育・防災管理の発展に寄与することを目的とするものである。
3	認定特定非営利活動法人日本心血管協会 (https://j-iscp.com/)	本団体は、心臓血管系疾患の薬物療法の研究及び医療従事者への教育、ならびに心臓血管疾患についての一般市民への啓発と予防に関する事業を推進し、国際交流を深めることにより、我が国における心臓血管系疾患の予防医学及び薬物療法の進歩普及に貢献し、国際的レベルでの健康増進及び医療の発展に寄与することを目的とするものである。
4	ヒューマンケア研究学会 (https://www.kusw.ac.jp/JSHCR/)	本団体は、ヒューマンケアに関する学術的発展と教育・普及を図り、人々の健康に貢献することを目的とするものである。

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和5年度第3四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和5年度第3四半期】 提案なし

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び四半期ごとにおおむね8回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和5年度第3四半期】 1件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案2	公開シンポジウム「AI時代における哲学・美学・倫理学・宗教学」	令和5年11月 25日(土) 13:30~17:00	日本学術会 議講堂	不要	不要

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日2件/土日6件） 全8件

（内訳）※全件について、経費又は人的負担要

		第1四半期 （4月～6月）	第2四半期 （7月～9月）	第3四半期 （10月～12月）	第4四半期 （1月～3月）
学術フォー ラム	（土日）		6		
	（平日）	1	1		
	（開催曜日 未定）				
合計		1	7	0	

※第337回幹事会（令和5年3月23日開催）で決定した学術フォーラム（カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦：学術領域を超える課題と取組（令和5年4～6月開催希望））については、出演者の都合により、開催を取りやめることとなったため、全体及び第1四半期の件数がそれぞれ1件減っている。

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全9件 残り：23件

（内訳）

		第1四半期 （4月～6月）	第2四半期 （7月～9月）	第3四半期 （10月～12月）	第4四半期 （1月～3月）
シンポジウム	第一部		1	1	
	第二部	1			
	第三部				
	若手アカデミー				
	課題別				
学術フォーラム（土日）			6		
合計		1	7	1	

公開シンポジウム
「AI 時代における哲学・美学・倫理学・宗教学」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会
2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）11 月 25 日（土）13：30 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
※合同分科会は別途会議室を使用予定
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり（哲学委員会及び全分科会の合同分科会）
8. 開催趣旨：

ChatGPT をはじめとする人工知能（Artificial Intelligence, AI）技術の急速な発展が多方面にもたらすであろう影響が、脅威と期待をもって日々語られている。哲学・美学・倫理学・宗教学といった哲学系諸分野は、昨今の AI 技術の急速な発展をどのように受け止めればよいのだろうか。人文学の研究にデジタル・テクノロジーを活用する「デジタル・ヒューマニティズ」が注目を集めているように、AI 技術は哲学系諸分野の研究手法に革新をもたらし、新たな知見をもたらすことが期待される。しかし、画像生成 AI を例にとれば、新たな表現を生み出す可能性と同時に、著作権などさまざまな権利を不当に侵害することへの危惧も指摘されている。哲学研究のあり方も、AI 技術の発展によって根底から大きく変容を迫られる可能性も否定できない。しかし同時に、哲学・美学・倫理学・宗教学といった学問は、AI 技術が急速に発展するなかでこそ、その真価を発揮し、AI 技術の発展がもたらす意味を理解し把握しようとするものでもあるだろう。

本シンポジウムでは、AI 技術の発展が哲学系諸分野にどのような影響をもたらすのかを、多面的に検討すると同時に、AI 技術に対して哲学系諸分野がどのようにアプローチできるかについて幅広い視点から議論したい。

9. 次 第：

- 司会：中村 征樹（日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構教授）
挨拶
- 13:30 開会挨拶
吉水 千鶴子（日本学術会議第一部会員、筑波大学人文社会系教授）
- 13:40 報告1『AI 技術の現在と今後の展望（仮）』
上田 修功（日本学術会議連携会員、理化学研究所革新知能統合研究センター副センター長、NTT コミュニケーション科学基礎研究所リサーチプロフェッサ）
- 14:00 報告2『能力の再定義に向けて（仮）』
伊藤 亜紗（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）
- 14:20 報告3『AI 時代の宗教学（仮）』
藤原 聖子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
- 14:40 報告4『「人類の調和」とAI 技術（仮）』
佐久間 洋司（大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程、日本学術振興会特別研究員（DC1））
- 15:00 休憩
- 15:15 コメント1 戸田山 和久（日本学術会議連携会員、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構教授）
- 15:30 コメント2 大学学部生の特定質問者（調整中）
- 15:45 ディスカッション
- 16:50 閉会挨拶 吉岡 洋（日本学術会議第一部会員、第25期哲学委員長、京都芸術大学文明哲学研究所教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「One Health：野生動物に関わる諸問題と獣医学」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会
合同食の安全分科会
2. 共 催：令和5年度厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）
「野生鳥獣由来食肉の食中毒発生防止と衛生管理ガイドラインの改良に資
する研究」研究班、北海道大学大学院獣医学研究院
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）7月29日（土）13：30～15：30
5. 場 所：オンライン開催（北海道大学大学院獣医学研究院から配信）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
我が国の野生動物（鹿・猪など）の生息数と生息地域は過去30年間に急速に拡大し、
奥山に生息する熊や猿等の市街地での目撃情報も増加している。近年、農作物被害額は
減少傾向にあるが、年間155億円に達しており、車・列車との衝突事故も後を絶たない。
これまで、国は様々な獣害防止対策と捕獲獣の利活用による両輪の施策を展開してきた
が、今後、人口減少と高齢化に伴った集落機能の低下が更に広域的に進み、野生動物の
個体数制御も難しい状況に至ることが予想される。野生動物の生息数・生息地域の全国
的な拡大はヒトや家畜への人獣共通感染症や家畜伝染病の侵入・拡散のリスクが心配さ
れ、既に豚熱が2018年から全国規模で拡大し、次にはアフリカ豚熱の国内侵入が懸念さ
れている。一方、捕獲されたシカやイノシシの食肉・飼料としての利活用が展開されて
いる。現状を知り、将来への課題を獣医学と食の安全の視点から分析し、社会還元する
ことを目的として、本シンポジウムを企画した。今回はそのキックオフとして全体を鳥
瞰する内容とした。

9. 次 第 :

司会 石塚 真由美 (日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授)

座長 高井 伸二 (日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授)
杉山 誠 (日本学術会議連携会員、岐阜大学副学長、東海国立大学機構理事)

13:30 『野生動物の生息状況と被害』
梶 光一 (東京農工大名誉教授、兵庫県森林動物研究センター所長)

13:50 『野生鳥獣の利活用の施策と現状』
天野 絵里 (農林水産省農林振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課鳥獣利活用推進班課長補佐)

14:10 『ジビエを楽しむための基礎知識』
(令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「野生鳥獣由来食肉の食中毒発生防止と衛生管理ガイドラインの改良に資する研究」研究班)

『野生動物が媒介する人獣共通感染症』
前田 健 (国立感染症研究所獣医科学部部長)

『食中毒を引き起こす病原微生物』
壁谷 英則 (日本大学生物資源科学部獣医学科教授)

『シカとイノシシの寄生虫』
入江 隆夫 (宮崎大学農学部獣医学科准教授)

『狩猟関係者のためのカラーアトラス』
宇根 有美 (岡山理科大学獣医学部教授)

『ジビエペットフードの現状とリスク』
高井 伸二 (日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授)

15:00 総合討論

15:30 閉会の挨拶
高井 伸二 (日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「数学教育の変遷～数理・データサイエンス・AI 時代における数学教育の変革及び女性
人材の登用に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会、数理科学委員会 IMU 分科会、
数理科学委員会数学分科会、数理科学委員会数理統計学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：特定非営利活動法人数学月間の会、一般財団法人統計質保証推進協会、一般
社団法人日本数学会、公益社団法人日本数学教育学会、一般社団法人日本応
用数理学会、統計関連学会連合
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）8 月 2 日（水）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
数学が科学を記述する言葉であり、社会の基盤を支えていることから数学的な基礎力を
身に付けることが必須となっている。数理・データサイエンス・AI 時代において数学的な
基礎力を身に付けた多様な人材育成、女性人材の育成が必要であるという「報告 数学教
育の変革について」を準備中であり、明治 5 年（西暦 1877 年）の学制頒布では自然科学・
工学を学ぶためには西洋数学を学校で教授することとしたという変革があったということ
から、江戸時代以降の数学教育の変遷を振り返りつつ、今日及び次の時代を見据えた数学・
数理科学の教育に関わる議論を行い、社会発信の場とする。
9. 次 第：
総合司会 伊藤 由佳理（日本学術会議第三部会員、東京大学国際高等研究所カブ

リ数物連携宇宙研究機構教授)

- 13:00 開会挨拶及び趣旨説明
真島 秀行 (日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授)
- 13:15 講演Ⅰ 「数学教育に活かそう「数学月間」の心」
谷 克彦 (特定非営利活動法人数学月間の会副理事長)
- 13:45 講演Ⅱ 「科学技術のイノベーションに必要なものー江戸時代にもあった異分野の研究者の交流ー」
鳴海 風 (歴史小説家・元株式会社デンソー技術者)
- 14:30 分科会報告(案)及び討論
清水 美憲 (日本学術会議連携会員、筑波大学人間系教授)
渡辺 美智子 (日本学術会議連携会員、立正大学データサイエンス学部教授)
川添 充 (日本学術会議連携会員、大阪公立大学国際基幹教育機構教授)
高田 章 (日本学術会議連携会員、ロンドン大学特任教授)
西村 圭一 (日本学術会議連携会員(特任)、東京学芸大学大学院教授)
- 16:00 講演Ⅲ ” OECD Learning Compass for Mathematics “
田熊 美保 (OECD 教育・スキル局 (EDU) シニア政策アナリスト)
- 16:30 講演Ⅳ 「女性人材登用を我が国で円滑に進めるために」
平田(河野) 典子 (日本学術会議連携会員、日本大学理工学部特任教授)
- 17:00 閉会挨拶
清水 美憲 (日本学術会議連携会員、筑波大学人間系教授)

10. 関係部の承認の有無： 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開講演会
「健康・幸福寿命の延伸に資するスマート歯科医学・歯科医療の実現」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会、歯学委員会臨床系歯学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本歯科医学会連合
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）8月4日（金） 14：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

第25期日本学術会議歯学委員会は、その所属の3分科会の協力を得て、未来の学術振興構想案「健康・幸福寿命の延伸に資するスマート歯科医学・歯科医療の実現」及び意思の表出における報告案「歯学、口腔科学分野の課題と展望」をまとめている。また、関係する学協会連合においても「2040年への歯科イノベーションロードマップ」をまとめている。

本シンポジウムでは2040年を見据えて、歯学、口腔科学分野がどのような方向を向いて活動すべきかを歯学分野だけでなく関係する分野で情報共有し、その設定した案、課題と展望について多角的に議論するものである。

9. 次 第：

1) 14：00 開会挨拶

望月 眞弓（日本学術会議副会長、慶應義塾大学名誉教授）

住友 雅人（一般社団法人日本歯科医学会連合理事長）

2) 14：05 シンポジウム

座長：市川 哲雄（日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授）

品田 佳世子（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院口腔疾患予防学分野教授）

講師：

- [1] 村上 伸也（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院歯学研究科教授）
「未来の学術振興構想」と歯学分野との関わり
- [2] 西村 理行（日本学術会議第二部会員、大阪大学歯学研究科教授）
歯学分野の「未来の学術振興構想」
- [3] 天野 敦雄（大阪大学大学院歯学研究科教授）
2040年への歯科イノベーションロードマップ（一般社団法人日本歯科医学会
連合からの推薦）
- [4] 佐々木 啓一（日本学術会議連携会員、公立大学法人宮城大学学長・副理事長）
歯科医療分野でのAI、IOTの推進
- [5] 飯島 勝矢（日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構・未来ビジ
ョン研究センター教授）
Well-being 実現で歯学、口腔科学に期待する（健康生活科学委員会からの推薦）
- [6] 品田 佳世子（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院口腔疾患予防学
分野教授）
歯科衛生士の立場から提案する。

3) 15:35～15:55 総合討論・質疑応答

市川 哲雄（日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授）

4) 15:55 総括、閉会挨拶

松村 英雄（一般社団法人日本歯科医学会連合副理事長）

村上 伸也（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院歯学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会、分科会委員）

公開シンポジウム
「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、
共有問題の現状と将来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会
2. 共 催：未定
3. 後 援：公益社団法人日本地球惑星科学連合（予定）、一般社団法人日本地質学会（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）8月20日（日）13：00 ～ 17：20
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

新たな学術のあり方としてオープンサイエンスが議論されており、学術論文投稿・出版など科学を推進するうえで身近なところですでに問題となってきている。こうした状況のもとで、学術の将来像が問われる事態となりつつある近年、特に地球惑星科学における、学術試料、学術データの重要性が叫ばれている。これらは地球・惑星の歴史資料であり、逸失すれば取り戻せない、人類社会が共有すべき知的財産である。こうした学術の基礎、基盤である、学術試料、学術データの整備、保存、管理は、当該学術分野のみならず、将来における気候変動、災害対応及び予測しがたい未来の人類社会の生存と持続可能な発展のための基礎情報であり、これをもとに社会的意思決定を行うための学術研究にとって不可欠な基盤である。こうした試料、データの共有や管理、保存、利活用等の問題を、学術基盤や学術システムをサイエンスする立場から議論する。

9. 次 第：

総合司会

村山 泰啓（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構 NICT ナレッジハブ・研究統括、ナレッジハブ長（兼務））

- 13:00 開会の挨拶、趣旨説明（総合司会）
中村 卓司（日本学術会議第三部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所所長）
- 13:15 開会にあたって
木村 学（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人海洋研究開発機構海域地震火山部門アドバイザー）
- 第1セッション「オープンサイエンス時代における学術データ共有とサイエンス」
◇第一部総合司会
金尾 政紀（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設准教授）
- 13:30 講演「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来～政策側の視線から」
林 和弘（日本学術会議特任連携会員、文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長）
- 13:50 講演「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来～学術コミュニティ側の視線から」
村山 泰啓（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構NICTナレッジハブ・研究統括、ナレッジハブ長（兼務））
- 14:10 講演「学協会における論文出版と研究データ保存管理」
大谷 栄治（日本学術会議連携会員、東北大学学術研究員・名誉教授）
- 14:30 講演「国立環境研究所におけるデータ駆動型科学の推進とそれを支えるデータ基盤」
三枝 信子（日本学術会議第三部会員、国立環境研究所地球システム領域領域長）
- 14:50 休憩
- 第2セッション「学術試料散逸・保管のチャレンジと課題」
◇第二部総合司会
堀 利栄（日本学術会議第三部会員、愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授）
- 15:10 講演「国際深海科学掘削計画（IODP）等のコア試料の学術機関における保管問題」
池原 実（高知大学海洋コア国際研究所教授）
- 15:30 講演「博物館における地球惑星系標本保管の諸問題」
齋藤 めぐみ（国立科学博物館地学研究部研究主幹）
- 15:50 講演「自然史系学術試料散逸問題と自然史財法の可能性」（仮）
西田 治文（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部生命科学研究科教授）
（ビデオ講演）

16:10 講演「宇宙・地球研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築の提案」

小宮 剛（東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻教授）

総合討論（総合司会）

16:30 総合討論

コメント：森田 澄人（国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター地質標本館館長）

コメント：白井 知子（国立研究開発法人国立環境研究所地球環境データ統合解析推進室・室長、研究データ利活用協議会研究データへのDOI登録促進小委員会・前委員長）

17:10 閉会の挨拶

木村 学（日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構海域地震火山部門アドバイザー）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「「こころの病」の脳科学」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会脳とこころ分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、基礎医学委員会・臨床医学委員会合同アディクション分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）8月22日（火）13：00～17：25
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（後日、YouTube 配信予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

心の健康は自分らしく幸せに生きるために不可欠のものです。超少子高齢社会、経済格差、新型コロナ流行などの影響で、現代社会が抱えるストレスは増加の一途をたどり、精神疾患に苦しむ人の数は増加しています。一方で、SNSなどの情報発信の多様化及び肥大化に伴い、大量の情報が、時に錯綜し、フェイクニュースとして流れる危険性も帯びてきています。そこで、本シンポジウムでは、「こころの病」について、関連する学術領域の専門家に講演をいただき、一般市民からの質疑応答とともに、正しい知識の獲得を目指す脳リテラシーを向上させるための議論を行います。

9. 次 第

開会の挨拶と趣旨説明：

高橋 良輔（日本学術会議連携会員、京都大学医学部医学科教授）

会長メッセージ

梶田 隆章（日本学術会議会長、東京大学卓越教授）

第二部部長挨拶

武田 洋幸（日本学術会議第二部長、京都産業大学生命科学部教授）

講演1 スロット：20分＋5分

演題1 精神疾患を対象とするゲノム医療の現状と方向性：ゲノム医療法の成立を踏まえて

尾崎 紀夫（日本学術会議会員第二部幹事、名古屋大学大学院医学系研究科特任教授）

演題2 シナプス：神経細胞のつなぎ目が不具合を起こす時

林 朗子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センターチームリーダー）

演題3 人工知能を用いた仮説検証型とデータ駆動型の精神医学研究（アディクション研究も含めて）

高橋 英彦（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科主任教授）

演題4 注意欠如・多動症（ADHD）－その中核と輪郭

岡田 俊（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部長）

演題5 自閉症をモデル

内匠 透（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院医学研究科教授）

演題6 うつ病・双極症の脳科学

加藤 忠史（日本学術会議連携会員、順天堂大学医学部精神医学講座主任教授）

総合討論（1時間）

座長：古屋敷 智之（日本学術会議第二部会員、神戸大学大学院医学研究科教授）

林 朗子（日本学術会議連携会員、国立研究開発機構理化学研究所脳神経科学研究センターチームリーダー）

指定討論者

池淵 恵美（日本学術会議連携会員、帝京平成大学大学院臨床心理学研究科教授）

北中 淳子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学文学部人文社会学科教授）

大隅 典子（日本学術会議連携会員、東北大学副学長）

影本 菜穂子（読売新聞医療部記者）

家田 有美子（株式会社講談社学芸第二出版部 副部長）

尾崎 紀夫（日本学術会議会員第二部幹事、名古屋大学大学院医学系研究科特任教授）

加藤 忠史（日本学術会議連携会員、順天堂大学医学部精神医学講座主任教授）

閉会の挨拶

伊佐 正（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院医学研究科教授）

池田 和隆（日本学術会議連携会員、公益財団法人東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認
11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議近畿地区会議学術講演会
「女性の活躍から未来を考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団
4. 日 時：令和5年9月9日（土）13：00～17：00
5. 場 所：京都大学イノベーション棟 シンポジウムホール（京都市左京区）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、ジェンダーの多様性と平等への関心が日本でも急速に高まっています。日本学術会議はこれに先がけて、女性構成員の割合を高め、また関連するさまざまな問題への取組を続けてきました。私たちの目指す未来社会は、単に人を男女に二分して女性を登用するといったものではなく、多様な個性を輝かせる基盤を持つ社会です。それへの足がかりの一つとして、本シンポジウムは、女性の活躍の歴史、最先端の女性研究者の現場、そしてジェンダーに関する最新の議論状況の紹介を企画しました。若い世代の方々の進路選択にも役立つことと存じます。オンラインでもご視聴になれますので、どの地域におられる方にも、積極的なご参加をお願いします。

9. 次 第：

開会挨拶

- 主催者代表 望月 眞弓（日本学術会議副会長・第二部会員、慶應義塾大学名誉教授）※現地参加
- 主催者代表 時任 宣博（京都大学理事・副学長）※現地参加

趣旨説明

高山 佳奈子（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

※オンライン

講演

- 招待講演「女性史に関する講演（仮）」
田端 泰子（京都橘大学名誉教授）※現地参加

最先端研究の紹介

- 講演1「iPS細胞を使った目の治療（仮）」
高橋 政代（日本学術会議連携会員、株式会社ビジョンケア代表取締役社長）
※現地参加

- 講演2「化学で歴史の謎を解く（仮）」
宮路 淳子（日本学術会議連携会員、奈良女子大学人間文化研究科教授）
 ※現地参加
- 講演3「遺伝情報から野生動物の絶滅を防ぐ（仮）」
村山 美穂（日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）
 ※現地参加

講演

- ジェンダー論に関する講演「ジェンダードイノベーション（仮）」
伊藤 公雄（日本学術会議連携会員、京都産業大学客員教授） ※現地参加

パネル討論

上記講演者に加えて、高校生（予定）

コーディネータ：小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授） ※現地参加

京都の女性学長からのメッセージ

- 竹安 栄子（京都女子大学学長） ※現地参加

全体総括

- 三成 美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授） ※現地参加

総合司会

- 宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
 ※現地参加

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会
11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム

「歴史学が開く未来——新たな視角と研究＝教育＝実践のサイクルを通じて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）9月10日（日）13：30～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：歴史認識・歴史教育に関する分科会を開催予定
8. 開催趣旨：
急激に変容する現代世界において人類社会の未来を展望する上で歴史学、「歴史的なものの捉え方」が持つ重要性について、社会的発信を行い、広く議論を喚起する。①環境史、ジェンダー史、アジアとの相互理解等をテーマとする新たな研究視角を紹介し、現代社会が抱えるアクチュアルな問題に長期的視野から取り組むことを可能にする歴史学の重要性を確認すると共に、②絶え間なく変化する世界の現実と対峙し得る歴史認識を育む上で歴史研究＝歴史教育＝歴史実践が果たす役割、相互の関係性のあり方についても議論を深めることを目指す。
9. 次 第：
司会
井野瀬 久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）
鈴木 茂（日本学術会議連携会員、名古屋外国語大学世界共生学部教授）
中村 元哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授）
13：30 開会挨拶・趣旨説明
井野瀬 久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）
13：40 報告1 『食と農の環境史——自然と人間の関係をいかに語るか』

藤原 辰史（京都大学人文科学研究所准教授）

14：20 報告2 『<ひと>から問う世界史——歴史学のジェンダー主流化を目指して』
三成 美保（日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授、奈良女子大学名
誉教授）

14：50 報告3 『「紛争化」を超える歴史認識——学生・市民とともに朝鮮植民地支配を考える』

加藤 圭木（一橋大学大学院社会学研究科准教授）

15：20 報告4 『対話に基づく複眼的把握と開かれた歴史教育をめざして——25期日
本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会での議論から』
栗田 禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院人文科学研究院教授）

久留島 典子（日本学術会議連携会員、神奈川大学国際日本学部教授、東京
大学名誉教授）

休憩（10分）（15：40～15：50）

15：50 総合討論

16：50 閉会挨拶

中村 元哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科・教養
学部教授）

17：00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会、分科会委員）

公開シンポジウム

「社会課題に立ち向かう総合工学分野の人材育成～これからの大学教育に
何を求めるか? (仮題)」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会総合工学企画分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：エコデザイン学会連合、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合、公益社団法人日本工学会、日本計算力学連合、日本私立大学協会、一般社団法人防災学術連携体、応用哲学会、公益社団法人応用物理学会、科学技術社会論学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人可視化情報学会、公益社団法人計測自動制御学会、サービス学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人情報処理学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本応用数理学会、日本感性工学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、公益社団法人日本工学教育協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、日本社会心理学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、公益社団法人日本地震工学会、公益社団法人日本生体医工学会、公益社団法人日本設計工学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本都市計画学会、日本認知科学会、特定非営利活動法人日本バーチャルリアリティ学会、日本知能情報ファジイ学会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人ライフサポート学会 (以上、すべて依頼予定)
4. 日 時：令和5年(2023年)9月13日(水)13:30～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室6-A(1)(2)(東京都港区六本木7-22-34)
(ハイブリッド開催)(総合工学委員会開催予定のため)
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催未定

8. 開催趣旨：

総合工学とは、旧来の領域型分野（電気電子工学、機械、材料、情報、土木、建築などの分野）には見られなかった工学における横断型分野であり、あらゆる工学体系や知識を総動員して設計・製造される人工システムに関する分野である。言い換えれば総合工学は、社会のインフラストラクチャーを形成する特定のシステムや対象を取り扱うため、工学全般に収まらずあらゆる学問体系にわたる横断型の学問分野である。ここで重要なポイントは、人工システムの開発、設計、製作、運用、保全等だけではなく、いかに社会全体が幸福でいられるか、つまり公共社会の安全、健康、福祉のために有用な事物や快適な環境を構築することも目的としている。

本シンポジウムにおいては、前半に、総合工学分野で活躍できる人材育成に必要と考えられる根幹となる考え方と「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準総合工学分野」の内容についてご紹介し、後半に総合工学分野の人材育成の現状と課題等について、様々なバックグラウンドをもつ4人の先生方から問題提起いただき、総合工学分野の人材育成のため、これからの大学教育に何を求めるか？について議論をしていきたい。

9. 次 第：

開会挨拶

13:30 小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授）

第1セッション「社会的課題に立ち向かう総合工学分野の人材育成」

◇司会 吉田 文（日本学術会議第一部会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

13:40 『（仮題）文理の協創によって社会的課題に立ち向かう総合工学』
吉村 忍（日本学術会議第三部長、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授）

14:10 『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 総合工学分野～社会課題に立ち向かう総合工学分野の人材育成～』
筑本 知子（日本学術会議第三部会員、中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授、大阪大学レーザー科学研究所特任教授）

休憩（15分）（14：40～14：55）

第2セッション「（仮題）総合工学分野の人材育成のため、これからの大学教育に何を求めるか？」

◇司会 玉田 薫（日本学術会議第三部会員、九州大学主幹教授・副学長）

14:55 話題提供1：「総合工学的」教育の課題
岡本 正宏（九州大学総長特別顧問・名誉教授）

討論（指名討論者：小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、大阪成蹊
大学データサイエンス学部学科長・
教授））

15:15 話題提供 2：海外における総合工学的教育の状況

Jon P. Wade（カリフォルニア大学サンディエゴ校工学部特任教授）
（ビデオ講演）

和賀 三和子（カリフォルニア大学サンディエゴ校国際アウトリーチシ
ニアディレクター）（質疑応答）

討論（指名討論者：調整中）

15:35 話題提供 3：技術競争力と長期視野での人材育成

金田 千穂子（日本学術会議連携会員、東北大学国際集積エレクトロニ
クス研究開発センター教授）

討論（指名討論者：調整中）

15:55 話題提供 4：AI と総合工学

辻井 潤一（国立研究開発法人産業技術総合研究所フェロー）

討論（指名討論者：萩原 一郎（日本学術会議連携会員（特任）、明治
大学研究・知財戦略機構特別教授、東
京工業大学名誉教授））

総合討論（15:55～16:55）

閉会挨拶

16:55 玉田 薫（日本学術会議第三部会員、九州大学主幹教授・副学長）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「臓器再生最前線～ミニ臓器の作製から応用まで～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生命科学アカデミー
4. 日 時：令和5年（2023年）9月16日（土） 17：30 ～ 19：00
5. 場 所：日本大学歯学部（東京都千代田区神田駿河台 1-8-13）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

未曾有の超高齢社会を迎えた我が国では、再生医療の実現化が訴求されている。歯科領域でも、歯周疾患に対する再生医療薬が上市されているが、さらなる新規再生治療法の実現が期待されている。近年、ES細胞、iPS細胞をはじめ、オルガノイドの活用を含めて、再生医学の発展は、目覚ましい状況である。特に、修復による再生医療だけでなく、臓器再生が近未来に可能になりつつある。そこで再生医学の最新のトピックを多くの市民の皆様と共有し、臓器再生に向けた再生医療への実現性と応用性を議論するために本公開シンポジウムを企画した。

9. 次 第：

17：30 挨拶

美島 健二（日本学術会議連携会員、昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門教授）

17：35 「中枢神経系のオルガノイドの作製とその応用」

六車 恵子（関西医科大学医学部 iPS・幹細胞応用医学講座教授）

17：55 「ヒト多能性幹細胞を用いた骨発生プロセスの再現とその応用」

大庭 伸介（大阪大学大学院歯学研究科組織・発生生物学講座教授）

18 : 15 「唾液腺オルガノイドの作製とその応用」

田中 準一（昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門講師）

18 : 35 「自家腸上皮オルガノイドの作製・製造と移植医療」

岡本 隆一（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科消化器病態学分野教授）

18 : 55 クロージング・リマーク

西村 理行（日本学術会議第二部会員、大阪大学歯学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「第二回安全安心技術が支えるデジタル社会

－（見解）安全安心なデジタル社会にむけた制度構築について－

Digital Society Supported by Safety and Security Technologies (DS4T)」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本セキュリティ・マネジメント学会、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会、一般社団法人情報処理学会（予定）
4. 日 時：令和5年（2023年）9月19日（火）13：00～18：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本学術会議情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会は、絶対なる安全はないという前提において、日本社会全体としてのセキュリティとプライバシーを考慮した安全安心なデジタル社会の構築に必要な制度設計について検討してきました。特に、医療、行政、地方自治体、教育、産業界など各種業界におけるデジタル社会に向けた取組事例の調査なども踏まえて、安全安心なデジタル社会の構築に必要な下記の4つの課題と必要な施策を明確にしました。本シンポジウムでは、これら4つの課題と施策について、各方面とともに議論します。

- (1) リカレント教育等によるデジタル人員強化の制度設計
- (2) プライバシ保護とデジタル社会の両立
- (3) サイバー攻撃を見据えたデジタル社会の設計
- (4) インシデント情報共有及び援助の仕組みを備えたデジタル社会の設計

9. 次 第：

司会 岩村 誠（日本学術会議連携会員、NTTセキュリティ・ジャパン株式会社特別
研究員）

13：00 分科会の主旨説明

宮地 充子（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科電気電子
情報工学専攻教授）

第一部講演 安全安心技術が支えるデジタル社会の設計

13:30-14:10 「安全安心なデジタル社会に向けた俯瞰的なセキュリティ研究と制度設計」

後藤 厚宏 (情報セキュリティ大学院大学学長・教授)

14:10-14:50 「プライバシー保護とデジタル社会の両立に向けた技術と制度の接点の考察」

高橋 克巳 (日本電信電話株式会社 NTT 社会情報研究所 主席研究員)

14:50-15:05 (休憩)

第二部講演 デジタル社会実現へ取組紹介

15:05-15:45 「リカレント教育によるデジタル人員強化の制度設計—企業と受講者の視点から—」 (仮題)

中谷 多哉子 (放送大学情報コース教授)

15:45-16:25 「サイバー攻撃を見据えたデジタル社会設計の必要事項、その実証と検証」

森井 昌克 (神戸大学大学院工学研究科教授)

16:25-17:40 パネルディスカッション

コーディネーター: 元村 有希子 (毎日新聞社論説委員)

パネラー: 向井 まさみ (国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院医療情報部副医療情報部長)

山下 みさと (愛媛県西予市総務課付課長補佐、(派遣) 公益財団法人えひめ地域活力創造センター副センター長)

後藤 厚宏 (情報セキュリティ大学院大学学長・教授)

高橋 克巳 (日本電信電話株式会社 NTT 社会情報研究所 主席研究員)

中谷 多哉子 (放送大学情報コース教授)

森井 昌克 (神戸大学大学院工学研究科教授)

松浦 幹太 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

17:40 総括

高田 広章 (日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

18:00 閉会

10. 関係部の承認の有無: 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「豊かな食と畜産の未来に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本畜産学会
2. 共 催：日本畜産学アカデミー
3. 後 援：全国農業協同組合連合会
4. 日 時：令和5年（2023年）9月21日（木） 13:00～17:00
5. 場 所：国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学講堂
（北海道帯広市稲田町西2線11）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

人の健康に必要なタンパク、脂質、ビタミン類、ミネラル類を十分に含むだけでなく、健康増進に役立つ様々な機能性物質を含んでいることが科学的に解き明かされてきている畜産物の消費量は1960年代から大きく増えはじめ、1965年に9.2kg/人/年であったところ、2020年には34kg/人/年にまで増加しました（3.7倍）。それに伴い、平均寿命は、1965年に女性72.9歳、男性67.7歳であったものが2020年には女性87.5歳（14.6歳増）、男性81.4歳（13.7歳増）と大幅に伸び、身長も30歳女性の平均身長が148.9cm、同じく男性が160.3cmであったところ、各々158.3cm、171.5cmに伸びました（厚生労働省「国民健康・栄養調査」）。また、2021年度の農業総産出額約8.8兆円のうち畜産物は約40%（3.4兆円）を占めるまでに増えています（農林水産省「令和4年度食料・農業・農村白書」）。

このように豊かな食を支え食卓に欠かせない畜産物ですが、食料自給率が38%に過ぎない日本において、飼料自給率は24%にとどまり、多くを輸入に頼っている状況において、畜産は持続可能でしょうか。加えて解決すべき多くの課題も抱えています。温室効果ガス・メタンの大きな発生源であるため軽減策を具現化すること、アニマルウェルフェアに対応した飼養管理を遵守すること、国境を超えた人獣共通感染症や新興・再興感染症を防疫すること、担い手の高齢化と減少に対応するためにAI化を普及させて効率化することなどに対処しないと持続的生産は成し得ません。

本公開シンポジウムでは、我が国の豊かな食と畜産の未来に向けて研究者と生産者の知識と科学力を結集し多角的な視点から山積する課題に取り組むための一助として、我が国に最適化された畜産の具体的将来像を考える機会にしたいと思います。

9. 次 第：

13：00-13：10 開会の挨拶：

小澤 壮行（日本学術会議連携会員、公益財団法人日本畜産学会理事長、日本獣医生命科学大学教授、日本畜産学アカデミー会員）

座長：

近藤 誠司（北海道大学名誉教授）

13：10 「SDG s に対応した低メタン牛肉生産」

河合 正人（北海道大学大学院環境科学院准教授）

13：40 「鶏の代謝状態と鶏肉・鶏卵の品質との関連性」

井尻 大地（鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域准教授）

14：10 「家畜飼養の本来的意義とミルクの可能性」

平田 昌弘（帯広畜産大学大学院畜産学研究科教授）

13：40 「乳製品のナノ構造解析：食べられる状態のままナノスケールの混ざり方を調べる」

大沼 正人（北海道大学大学院工学研究院教授）

15：10 「世界の食料事情と畜産が支える栄養への貢献」

白鳥 佐紀子（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター主任研究員）

15：40-15：50 休憩

15：50 総合討論

座長：

八代田 真人（岐阜大学大学院自然科学技術研究科教授）

コメンテーター：

吉澤 緑（日本学術会議連携会員、宇都宮大学名誉教授、元公益社団法人日本畜産学会理事、日本畜産学アカデミー幹事）

パネリスト：

河合 正人（北海道大学大学院環境科学院准教授）

井尻 大地（鹿児島大学学術研究院農水産獣医学域准教授）

平田 昌弘（帯広畜産大学大学院畜産学研究科教授）

大沼 正人（北海道大学大学院工学研究院教授）

白鳥 佐紀子（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター主任研究員）

16：50-17：00 閉会の挨拶

眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・教授、東京大学名誉教授、公益社団法人中央畜産会理事、日本中央競馬会経営委員会委員、元公益社団法人日本畜産学会理事、日本畜産学アカデミー事務局長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（2）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
2. 共 催：ERATO 深津共生進化機構プロジェクト
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）11月26日（日）13：00～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
さまざまな動物とそれらを取り巻く環境との関係や、共生に代表される多様な生物間の相互作用に関する研究成果は、動物科学の面白さを体感できるトピックスです。本シンポジウムでは、学生から一般社会の方々までを広く対象として、動物の多様性、生態、進化などに関する最新の研究成果を分かりやすく魅力的に解説することにより、動物科学の普及および振興をめざします。
9. 次 第：
13:00 開会の辞
寺北 明久（日本学術会議連携会員、大阪公立大学大学院理学研究科教授・理学研究科長）
13:05 『小笠原諸島の鳥類相変化とハンパティ・ダンプティ問題』
川上 和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所野生動物研究領域鳥獣生態研究室長）
13:35 『コケと繋がる動物たちの知られざる生態と進化にせまる』
今田 弓女（京都大学大学院理学研究科助教）
14:05 『なぜクマムシは極限環境に耐えられるのか？その謎を探る』
國枝 武和（東京大学大学院理学系研究科准教授）

14:35-14:45 (休憩)

14:45 『ハダカデバネズミの長寿・抗老化・がん耐性・社会性の不思議』

三浦 恭子 (熊本大学大学院生命科学研究部教授)

15:15 『個体発生は系統発生(進化)を繰り返す?繰り返さない?』

入江 直樹 (日本学術会議連携会員、総合研究大学院大学統合進化科学研究センター教授)

15:45 総合討論

(司会) 深津 武馬 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所生物プロセス研究部門首席研究員)

16:00 閉会

10. 関係部の承認の有無: 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

(下線の講演者は、主催委員会、分科会委員)

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 日本科学振興協会年次大会 2023「会いに行ける科学者フェス」

主催：特定非営利活動法人日本科学振興協会

期間：2023年10月7日（土）～9日（祝・月）

場所：秋葉原 UDX

参加予定者数：約15,000名

申請者：特定非営利活動法人日本科学振興協会 代表理事 原山 優子、北原 秀治

審議付託先：科学と社会委員会

審議付託結果：科学と社会委員会承認

2. 第44回日本熱物性シンポジウム

主催：日本熱物性学会

期間：2023年11月7日（火）～9日（木）

場所：日本大学生産工学部津田沼キャンパス

参加予定者数：約200名

申請者：日本熱物性学会 会長 堀部 明彦

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

3. 第66回自動制御連合講演会

主催：公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人システム制御情報学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人日本航空宇宙学会

期間：2023年10月7日（土）～8日（日）

場所：東北大学川内キャンパス

参加予定者数：約400名

申請者：公益社団法人計測自動制御学会 会長 高橋 桂子

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第347回幹事会	令和5年	7月13日(木)	(※)	14:30から
第348回幹事会	令和5年	7月24日(月)		14:30から
第349回幹事会	令和5年	8月10日(木)	(※)	14:30から
第350回幹事会	令和5年	8月29日(火)		13:30から
第351回幹事会	令和5年	9月15日(金)	(※)	13:30から
第352回幹事会	令和5年	9月25日(月)		13:30から

※印の幹事会は、取りやめの可能性あり

●総会

第188回総会 令和5年7月16日(日)